

NEWS

北海道薬科大学と包括連携協定を締結しました

2008年11月7日(金)に、本学は北海道薬科大学(小樽市)と「教育・研究・地域貢献に関する包括連携協定」を締結しました。調印式は同日、北海道薬科大学において行われ、本学の近藤潤子学長と北海道薬科大学の大和田栄治学長が協定書にサインをしました。

この包括連携協定は、看護師と薬剤師養成課程において、相互の教育カリキュラムを連携・協同し実施することで、医療職間の相互理解を深め、卒業後の協力の円滑化を促進し、実務における職能の幅を広げ、地域医療への貢献を図ることを趣旨としています。

特に、看護系の大学と薬学系の大学が包括連携協定を締結するのは、全国的にも非常に稀なケースであると言われています。

具体的な協定の内容については今後、大学間で検討をしていくことにしていますが、事業内容としては、①教員の交流(非常勤講師としてお互いの大学の科目を受け持つ)、②学生の実務実習での交流(看護の臨地実習、薬剤師実務早期実習等の体験)、③大学院、教員レベルでの研修・研究協力(教員の共同研究等)等となっています。また、緩和ケアの往診など在宅医療の現場に携わる看護師と薬剤師の協力体制づくりなど地域医療の充実にも力を入れていく方針です。

2009年度はすでに、本学の教員が「看護学概論」の非常勤講師として出講し、連携協定が実際にスタートしています。



PICK UP

近藤潤子学長が 北海道社会貢献賞を受賞しました

2008年度北海道社会貢献賞(私学教育功績者)を本学の近藤潤子学長が受賞し、2008年11月18日(火)、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて授賞式が行われました。「北海道社会貢献賞」とは、長年にわたり私学教育に尽力し、北海道の私学振興に大きな貢献を果たした者を、北海道知事が表彰するものです。近藤潤子学長は、天使女子短期大学、聖路加看護大学、現在は天使大学と、長きにわたり私学の高等教育の充実・発展に大きく寄与したこと、天使女子短期大学を4年制大学に改組転換し、さらに2004年には日本初にして唯一の助産師養成のための専門職大学院を開設したこと、また、日本助産師会会長を務めるなど、広く看護師・助産師等教育の向上に貢献したこと等を評価されての今回の受賞でした。



今年の天使祭を ふりかえる

勉強と天使祭準備で忙殺の日々
それを乗り越えたからこそ
達成感と感謝の気持ち

前天使祭実行委員長・看護学科3年 井貝 仁美



ひとりでも多くの学生に楽しんでもらうために

2008年6月20日(金)～21日(土)、第55回天使祭が行われました。今回の天使祭のテーマは「CAN DO～乗り越えてみなBIG WAVE～」。私たちは、このテーマに沿っているいろいろなことに挑戦していきました。19日(木)に行われた前夜祭では、実際にクローン病と戦っているミュージシャンの方に弾き語りをしてもらうという、看護学科・栄養学科それぞれにとって意義あるイベントを企画しました。本祭・後夜祭では、模擬店や健康相談、セラピー犬、カラオケ大会といった恒例の企画に加え、芸能人のトークショーなどの新しい企画も取り入れました。また、毎年行われる抽選会では、例年以上に景品の数を増やしたりするなど工夫して、多くの人に楽しんでもらえるように心がけました。

19日の前夜祭では、教職員の方々が楽しい発表をしてくださり、葦の会(天使大学の学生組織)のメンバーも素晴らしい司会進行をしてくれたので、とても盛り上がりました。前日にシナリオを作成して急いでリハーサルを行ったので、当日は不安でしたが、みんなの頑張りのおかげでとても安心して見ることができました。

20日の本祭1日目は、大きなトラブルもなく、ほとんどスケジュール通りに進みました。21日の本祭2日目は、模擬店や学内企画、ステージ企画などが同時進行で、併せて後夜祭の準備もしなければならなかったのが、本当に大忙しでした。芸能人のトークショーを企画した後夜祭は、多少ハプニングが生じたものの、今までにないくらいの盛り上がりを見せ、大成功でした。またこの企画は、天使祭の準備の中で一番大変だったので、無事に終了できたときは涙が止まりませんでした。

自分ひとりではできないこともみんなの支えがあれば

今年の天使祭準備は、勉強が忙しくて手が回らなくなったり、葦の会のメンバー同士の話し合いも難航したりと、トラブルだらけでした。私自身、どのように準備を進めればよいかわからなくて混乱したり、みんなをうまくまとめられなかったり、委員長として自信を失いかけた時期もありました。そんなとき、私を支えてくれたのは、天使祭に携わっている職員の方々や天使祭実行委員のメンバー、クラスの友達、昨年度お世話になった元葦の会

の先輩たちでした。支えてくれる方がいたからこそ、天使祭実行委員長を最後までやり遂げることができたのだと思います。また、天使祭が無事に終了できたのは、葦の会や天使祭実行委員のみんなが、成功に向けて頑張ってくれたおかげです。

天使祭が終わり、教職員の方々や先輩、友達、後輩から「お疲れ様!」「天使祭、楽しかったよ!」「ありがとう!」などと言われたとき、「大変だったけれど天使祭実行委員長を最後までやり遂げて本当によかった」と実感しました。天使祭は、私の予想以上に忙しくて、倒れそうになることもありましたが、だからこそ、それをやり遂げたときの達成感は計り知れないものでした。まるで高校生に戻ったかのように天使祭を楽しみ、青春を謳歌することができました。

最後に、天使祭準備に携わってくださった学生・教職員の皆さん、本当に感謝しています。ありがとうございました。今年は、昨年以上に楽しい天使祭になることを期待しています。



人数は少ないけれど、いつも元気な天使の男子学生も大活躍です



仮装をしたキャラクターを探すスタンプラリーが人気でした

教員から見た
天使祭

長い準備の過程で 仲間と協調する感性が養われます

栄養学科准教授 西 隆司

天使祭は葦の会が主催する学内行事のひとつです。短大時代には秋に開催されていた時期もありましたが、大学が4年制に移行してからはカリキュラムとの関係で開催時期は6月下旬で定着しています。

近年の天使祭は学内企画とステージ企画の2つを中心として、主にクラス単位での活動が主体となっています。学内企画ではクラスごとに出店する模擬店のほか、クラブや外部団体による模擬店、バザー、展示会などが開催されています。ステージ企画では、学生・教職員有志による歌やダンス、カラオケ大会などが行われるとともに、後夜祭では外部からタレントを招いてのトークショーが催されています。天使祭開催中にはオープンキャンパスも行われており、高校生に天使大学の雰囲気や学生生活の様子を知っていただくよい機会となっています。

天使祭は前夜祭も含めると3日間に渡る学内最大の行事のため、準備にはかなりの時間と労力を要します。天使祭の運営は葦の会役員と各クラスから選出された実行委員によって行われます。委員会で決まった内容をクラスに持ち帰り、クラス内で話し合っ準備を進めていくのですが、準備の途中でさまざまな困難に出会います。そのたびに思い悩み、時には感情的になってぶつかることもあります。それでも皆で協力しあうことで、相手を知り、相手を思い、協調し合う感性が養われていくのではないのでしょうか。実際私が担任をしていた1年生(当時)では、それまでは気に入った仲間内だけで小さなグループを形成して行動していたのが、天使祭を機にクラスに一体感が生まれ、全員で行動できるようになった気がします。

天使祭は学生が自分たちで考え、作り上げていく行事です。大きな責任も背負いますが、学生たちにとっては受け身で参加する行事よりもはるかに多くのことを学び取れる良い機会になっていると感じます。

模擬店

2008年度の天使祭でも、各クラスやクラブが趣向を凝らした模擬店を出店し、天使祭を大変盛り上げてくれました。



今回は前年よりも出店数が多く、その内容もよりバラエティに富んだものとなりました。毎年テーマを設定し、それに沿ったお菓子を製作している「菓子研究部」は、今回は「低エネルギーのお菓子」をテーマに、出店していました。ゼリーやチーズケーキなど数種類のお菓子があり、何を食べようかと選ぶのも楽しかったです。他にも、ピタパンやタコス、ザンギ井などはん系、アイスクリームやゼリー入りサイダーといったデザート系など、見応え、食べ応え十分な模擬店ばかりでした。

天使祭前日は強い雨が降りましたが、当日は雨の不安を吹き飛ばすくらい、どの模擬店にもぎわい、盛り上がりました。

健康相談

今回の健康相談は前年と同様、血圧測定・握力測定・前屈測定・体内脂肪測定・アルコールパッチテストを行いました。



体内脂肪計は普段測る機会がないので、来場者の方々からは自分たちの体脂肪に興味津々のようでした。今回は、簡単な健康相談を看護学科3年生(当時)に協力していただき行いました。その後保健師さんに本格的な健康診断を行っていただいたので、混雑を避けることができ、学生も地域の方々と交流することができ、大変有意義でした。今年健康相談を担当した学生は、ミーティングにきちんと参加し、準備や後片付けも積極的に行ってくれたので、スムーズに進みました。来場者数は249名で、来場する人が最後まで途切れることはありませんでした。今回の健康相談が成功したのは本当にたくさんの方の協力があったからだと思います。

FCO 環境への取り組み

現在、多くの大学が大学祭でごみの分別など環境への取り組みを行っています。第55回天使祭でも、エコについての活動を積極的に行いました。

今回の天使祭で新たに取り組んだことは「割りばしのリサイクル」です。使用済みの割りばしを回収している工場があり、そこに割りばしを送ると紙の原料の一部として使用されます。私たちは各クラス・団体に協力してもらい、使用済みの割りばしを回収し、天使祭終了後に汚れを拭き取り、乾燥させ、その工場に送りました。

また、エコ容器を使用することも考えましたが、容器の使用数、予算などの関係で計画がうまくまとまらず、実現するにいたりませんでした。エコ容器については、次回の天使祭での取り組みに期待しています。

当日の「ごみの分別」に関して、たくさんの方々に協力していただき、「去年よりも分別の状況がいい」とお褒めの言葉をいただきました。今年度もご協力よろしくお願ひします。



Therapy dog

セラピードッグとは、触れ合いや交流を通じて、人の不安を減らし気力を高め、心と体を癒す働きをする犬たちのことです。

天使祭には、毎年たくさんの方々のセラピードッグが訪れ、在学生や地域住民を癒してくれます。

学生と東区住民とのかかわり

東区に住む方への健康教育を通して、
対象者を理解することの重要性に気づきました

看護学科4年 清水 唯

私たちは先輩とともに、2008年2月に「筋力維持」をテーマにした健康教育を、約100名の東区の住民、とくに高齢者の方を対象に実施させていただきました。学内の講義を通して、健康教育の方法や内容についての学習、学生間での演習はしていたものの、実際に住民を対象にした健康教育を行うことは初めての経験でした。そのため、健康教育そのものをイメージすること自体が難しく、苦悩する日々が続きました。試行錯誤の中で、東区の高齢者の方は健康意識が高い人々が多いことに何度も立ち返り、それが対象を理解することの重要性に気づききっかけとなりました。対象への理解が適切になされない場合、たとえ工夫した媒体を活用したとしても、効果的な健康教育にはつながりません。「どのように健康意識を高めるかではなく、いかに現在の健康意識を維持強化していくのか」、この視点を持つことができたとき、東区の住民に対する理解が深まり、個別性のある健康教育が展開できるようになったと実感しています。

東区住民への健康教育からの学びと体験は、看護学科の専門科目である「健康生活看護学臨地実習Ⅱ（地域）」での健康教育にも活かすこと

ができました。これまでとは異なり、計画を進める段階で、地域住民の対象理解に努めるのみにとどまらず、住民の生活実態をイメージしながら、対象の主体性を導き出すための、ヘルスプロモーションに基づいた健康教育ができるようになったと思います。私たちが実習先で展開した健康教育は、地域で生活する住民にとって効果的なものとなり、そこに「健康」の重要性を残すことができたと感じています。地域実習の健康教育の体験が、看護職を目指す私たちの財産になったことは言うまでもありません。

私たちは将来、看護職者として地域の健康を守ることに従事することになります。今回の東区の健康教育にかかわらせていただいたことに心から感謝しながら、学び得たことを風化させないように、これから出会う多くの人々にしっかりと還元していきたいです。



毎年天徳祭では「東区健康づくりパネル展」が開かれています

大学院看護栄養学研究科看護学専攻 公衆衛生看護学コース

公衆衛生看護学コースが
開設し、1年がたちました

数年前と比較して、保健師の仕事は児童虐待や引きこもり等の従来見られなかった心の健康に関する難題が多くなっています。一方、地方自治体において、行財政改革や地方分権が推進される中で、保健師の能力として、住民のニーズに基づいた健康政策の企画力と推進力が求められています。このような地域社会の多様なニーズに的確に対応できる高度な専門知識・技術と行政能力を備えた保健師の育成が求められています。

本学の大学院看護栄養学研究科看護学専攻「公衆衛生看護学コース（修士課程）」は、このような社会的なニーズを受けて、学士課程で習得した専門知識・技術を基盤に、さらに公衆衛生看護の学識を深め、行政の保健師としてリーダーシップを発揮できる人材育成を目的に、2008年4月に設置しました。大学院生1名（定員2名）でスタートしたこのコースも、ようやく1年が経過しました。

はじめて公衆衛生看護学コースの門をたたいた在學生に、この1年を振り返ってもらいました。

学びが統合されて、知識がつながると視界が広がります

看護栄養学研究科看護学専攻 公衆衛生看護学コース 小澤 涼子

学びが統合され知識がつながっていくと少し視界が広がり、実践してきたことを違う角度から考えられた時、「学ぶことはすごい」と改めて実感しています。

諸先生方にも暖かく丁寧な助言をいただき、迷う自分の思考を整理しながら学びを進めています。またホスピス・緩和ケア看護学コースの皆さんとも、学ぶことを分かち合い、助けてもらいながら過ごしています。この2年間で自分自身も見直しながら、新たな学びを重ね、「地域で暮らす人々のための支援」について考えていきたいと思っています。

公衆衛生看護学コースで学び始めてから、1年が過ぎました。保健師として働いてきて、たくさんの人々に出会い、実践から学んできたことを、もう一度原点に立ち返って「地域で暮らす人々のための支援」を考えたい——そう思ったのが入学したきっかけでした。

今は学ぶ中で、今まで実践してきた内容や自分の思考パターンに直面し、悩むことも多いですが、その分気づいて得られることも多いと感じています。今までの学生時代とはまた違い、自分で切り拓いて学んでいくことは、その労力も含めて貴重な経験になっています。学

看護師・助産師
国家試験合格率
100%を達成

2009年3月26日（木）に第98回看護師・第95回保健師・第92回助産師国家試験の合格発表がありました。本学看護学科は看護師国家試験に全員合格という晴れやかな結果となりました。保健師の合格率も98%と全国合格率を上回り、2009年3月卒業生の健闘が光りました。

また、大学院助産研究科の助産師合格率も100%でした。

	本学看護学科合格率	全国合格率
看護師	100%	89.9%
保健師	98.0%	97.7%
		全国合格率
	助産研究科合格率	
助産師	100%	99.9%

社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム

平成20年度社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムに「メタボリックシンドローム予防のための健康栄養指導スキルアップ実習プログラム」が採択されました

文部科学省では、社会人の「学び直し」のニーズに対応するための取り組みとして、平成19年度から新規に「大学・専修学校等における再チャレンジ支援推進プラン」において、「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」を実施しています。これは、大学等の教育研究資源を活用し、教育プログラムを展開する優れた取り組みを支援することにより、再チャレンジを可能とする、柔軟で多様な社会の実現に向けた高等教育機会の充実を図るためのものです。



天使大学の「メタボリックシンドローム予防のための健康栄養指導スキルアップ実習プログラム」は、平成20年9月に、委託事業として選定されました。

当プログラムは、内臓脂肪型肥満に起因するメタボリックシンドローム予防のために、現職の管理栄養士を対象にして、体系的・効果的な健康栄養指導に必要な実践的能力の修得を目的としています。メタボリックシンドロームを予防するために、2008年度から特定健診・特定保健指導が始まったことで、現場で健康栄養指導を実施できる管理栄養士の育成がますます求められるようになりました。日本栄養士会でも厚生労働省の標準的プログラムに沿った研修を行っています。実践・実習の不足、地域特性への対応欠如など改善すべき点はまだまだあります。

本プログラムは、天使大学大学院（看護栄養学研究科栄養管理学専攻）が専門実践科目としてこれまで実施してきた「天使健康栄養クリニック」の実績を基に、北海道栄養士会と連携しながら、現職の管理栄養士を対象にして、地域特性を考慮したエビデンスに基づいた体系的・効果的な健康栄養指導に必要な実践的能力を修得する研修プログラム



です。すなわち、健康栄養クリニックに参加した地域住民を対象に、教員の指導の下に、メタボリックシンドロームの病態理解、検査・調査方法、食事栄養・運動・健康行動指導の実際を、講義・演習・実習を通じて学修し、結果の解析と併せて高度な健診・保健指導の能力を修得します。

2008年度は11月～2月に計4回に渡るプログラムを実施しました。日本栄養士会による「特定保健指導実践者育成研修」を受講済みの現職の管理栄養士・栄養士10名を対象に、各回8時間におよぶ講義・演習・実習・グループワークを行いました。2009年度は前年度の内容を点検・改善し、5月9日（土）を皮切りに6回に及びプログラムを用意しています。

受講者の学修達成度はレポートなどにより評価し、合格者には大学の履修証明書ならびに北海道栄養士会生涯学習プログラムの履修証明書を発行し、社会的認知の向上にも努めています。



特定健診・特定保健指導とは？

2008年4月から「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、**40～74歳**の医療保険加入者を対象に「**特定健診・特定保健指導**」の実施が義務付けられました。今までの健診は個別疾患の早期発見が目的でしたが、「特定健診」はメタボリックシンドロームの概念に着目し、「病気を予防すること」を前提にした健診であることから、俗に「**メタボ健診**」とも呼ばれています。

診断の結果、メタボリックシンドロームと認定されると、運動・食生活・禁煙を中心に、行動変容を促す保健指導を受けることになります。その保健指導を行うことができる専門家は限られていて、医師・保健師とともに、栄養のプロフェッショナルである「**管理栄養士**」が挙げられています。

助産研究科認証評価

本学大学院助産研究科が 認証評価機構より「評価基準適合」の判定を受けました

本学大学院助産研究科助産専攻(専門職学位課程)が、特定非営利活動法人日本助産評価機構(以下「日本助産評価機構」とする)による認証評価を受け、「評価基準適合」の判定結果をいただき、2009年3月27日(金)に日本助産評価機構の恵美須文枝理事長より本学の近藤潤子学長に「基準適合認定証」が授与されました。

専門職大学院の認証評価は学校教育法で、「教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、大学院の設置目的に照らして、当該大学院の教育及び研究、組織及び運営並びに施設・設備の状況について、5年ごとに認証評価を受けるものとする」という内容で規定されており、本研究科は日本助産評価機構設立以来最初の認証評価となりました。

認証評価は、①教育の理念・目的、②教育課程、③入学者選抜、④学生への支援体制、⑤教員組織、⑥施設、設備および図書館、⑦管理運営等、⑧点検・評価、⑨情報の公開・説明責任の9章にわたる項目について、本学の大学院が自己点検・評価を行い、その結果を日本助産評価機構に対して、認証について申請を行い、同機構が書面審査と現地調査で評価を行うというものでした。日本で唯一の「助産専門職大学院」が認証評価機構から評価基準に適合しているとの判定を受けたことは、本学にとっては非常に喜ばしいことであると同時に、より一層社会のニーズに沿った

助産専門職の育成に向けたきめ細やかな教育を継続しなければならないと再認識する機会となりました。



認定マーク



恵美須文枝理事長(左)より基準適合認定証を授与される近藤潤子学長

ICM大会

第28回国際助産師連盟(ICM)大会に、助産研究科の大学院生が参加しました

2008年6月1日(日)～5日(木)までの5日間、スコットランドのグラスゴーにおいて28回目となるICM(International Confederation of Midwives)大会が開催されました。この大会は、3年ごとに世界のさまざまな地域で開催され、世界中から第一線で活躍する助産師が集まる大会です。今回のグラスゴー大会においても、世界80カ国以上から助産師たちが集まり、「助産——女性、そして新生児のために世界規模での取り組みを」を大会テーマとし、多くの基調講演・分科会等が行われ、各国の助産師が自国の代表として活発な意見を交わしました。総会に先立って開催された各国の助産団体代表者で構成する評議員会には、本学から近藤潤子学長(アジア太平洋地域代表理事)、ジョイス・トンプソン教授(ACNM)、園生陽子(日本助産師会)の3名が出席しました。また、今大会をもって、近藤学長は9年間にわたるICMアジア太平洋地域代表理事を任期満了で退任しました。

天使大学大学院助産研究科からも5名の大学院生が参加し、その中のひとり、阿保景子さん(4回生)の体験記をお伝えします。



世界各国の助産師と助産について意見を交わしました

初日には、開会式となるオープニングセレモニーが盛大に開催されました。「マルチフェイスセレモニー」と呼ばれるその式典は、多様な文化と宗教を祝うことを目的に、さまざまな国の文化的衣装に身を包んでダンスを楽しみ、世界の助産師との親睦を深めました。天使の大学院生たちは「浴衣」を着て参加しました。この日本特有の衣装は海外からの人気も高く、気づくと撮影会が始まっているほどでした。浴衣の人気のおかげで各国の助産師とコミュニケーションをとることができ、他国の出産スタイル、出生率、帝王切開率などについて知ることができました。また、海外の助産師は日本の出産文化に非常に大きな興味があり、「家庭分娩を行う産婆という存在が今でも多く残っているのか?」という質問を多くされたのが印象的でした。

ICM大会では、日ごとのテーマに合わせ、各国の助産師が倫理的側面、教育的側面、あるいは文化的側面から、自分の国の現状を踏まえた助産の実態を発表していました。毎日が刺激的で、助産師を志す自分自身にとっても非常に視野の広がる経験になったと思います。多くの力強い女性の声を聞き、私自身も女性の一生涯を支援していけるような助産師になりたいという思いを新たにしました。また、この大会で得た多くの事を今後の自分の糧とし、頑張っていきたいと思います。



ICM大会の講演風景

2007年度 決算概要 (2007年4月1日から2008年3月31日まで)

天使大学ホームページでも決算概要を公開しています

天使学園 資金収支計算書

(単位:円)

支出科目	予算	2007年度	増減	収入科目	予算	2007年度	増減
人件費支出	916,728,000	916,613,963	114,037	学生生徒等納付金収入	1,160,116,000	1,159,471,335	644,665
教育研究経費支出	313,262,000	265,303,945	47,958,055	手数料収入	23,025,000	24,926,295	△1,901,295
管理経費支出	65,371,000	57,203,808	8,167,192	寄付金収入	10,050,000	9,248,768	801,232
施設関係支出	179,297,000	179,285,197	11,803	補助金収入	223,473,000	248,789,224	△25,316,224
設備関係支出	34,768,000	42,077,666	△7,309,666	国庫補助金収入	223,400,000	248,716,000	△25,316,000
資産運用支出	48,000,000	48,000,000	0	地方公共団体補助金収入	73,000	73,224	△224
その他の支出	25,919,092	30,399,344	△4,480,252	資産運用収入	11,200,000	13,078,033	△1,878,033
予備費	2,000,000		2,000,000	事業収入	16,950,000	17,175,095	△225,095
資金支出調整勘定	△14,025,200	△18,062,876	4,037,676	雑収入	29,895,000	33,783,788	△3,888,788
次年度繰越支払資金	1,584,506,209	1,617,864,883	△33,358,674	前受金収入	615,770,000	614,000,000	1,770,000
				その他の収入	191,744,470	186,921,750	4,822,720
				資金収入調整勘定	△621,460,000	△663,770,989	42,310,989
				前年度繰越支払資金	1,495,062,631	1,495,062,631	0
支出の部合計	3,155,826,101	3,138,685,930	17,140,171	収入の部合計	3,155,826,101	3,138,685,930	17,140,171

資金収支計算書は、学園の1年間のお金の動きを表示したもので年度末にいつでも引き出すことができるお金をいくらかを計算する計算書です。資金収入には、授業料、補助金等、資金支出には、教職員給与、消耗品、水道光熱費、建物、機器備品等の購入を含みます。

天使学園 消費収支計算書

(単位:円)

支出科目	予算	2007年度	増減	収入科目	予算	2007年度	増減
人件費	916,878,000	916,653,061	224,939	学生生徒等納付金	1,160,116,000	1,159,471,335	644,665
(内退職給与引当金繰入額)	(28,100,000)	(28,906,033)	(△806,033)	手数料	23,025,000	24,926,295	△1,901,295
教育研究経費	408,462,000	358,565,346	49,896,654	寄付金	12,650,000	14,651,191	△2,001,191
(内減価償却額)	(95,200,000)	(93,261,401)	(1,938,599)	補助金	223,473,000	248,789,224	△25,316,224
管理経費	70,071,000	61,293,289	8,777,711	国庫補助金収入	223,400,000	248,716,000	△25,316,000
(内減価償却額)	(4,700,000)	(4,089,481)	(610,519)	地方公共団体補助金収入	73,000	73,224	△224
資産処分差額	1,470,000	1,460,057	9,943	資産運用収入	11,200,000	13,078,033	△1,878,033
予備費	4,780,000		4,780,000	事業収入	16,950,000	17,175,095	△225,095
				雑収入	29,895,000	33,783,788	△3,888,788
消費支出の部合計	1,401,661,000	1,337,971,753	63,689,247	滞属収入合計	1,477,309,000	1,511,874,961	△34,565,961
当年度消費収入超過額	△108,352,000	△19,570,392	△88,781,608	基本金繰入額合計	△184,000,000	△193,473,600	9,473,600
前年度繰越消費収入超過額	70,684,594	70,684,594	0	消費収入の部合計	1,293,309,000	1,318,401,361	△25,092,361
翌年度繰越消費収入超過額	△37,667,406	51,114,202	△88,781,608				

消費収支計算書は、学園の1年間の諸活動から経営が健全に行われているかどうかを把握するための計算書です。消費収入と消費支出を比べて収入が上回れば「消費収入超過額」、反対に支出が上回れば「消費支出超過額」となります。学校法人が将来にわたって維持発展するためには、消費収入と消費支出の均衡する財務体質が求められます。

学校法人の負債ととならない収入のことで、実質的な法人の収入をいいます。

天使学園 貸借対照表(2008年3月31日現在)

(単位:円)

	2007年度	2006年度	対前年度増減		2007年度	2006年度	対前年度増減
資産の部				負債の部			
固定資産	3,148,624,479	3,120,323,032	28,301,447	固定負債	256,819,931	256,773,833	46,098
有形固定資産	2,625,822,979	2,497,868,632	127,954,347	退職給与引当金	256,737,931	256,698,833	39,098
土地	438,082,994	438,082,994	0	その他の固定負債	82,000	75,000	7,000
建物	1,718,299,626	1,596,690,119	121,609,507	流動負債	669,695,432	675,396,000	△5,700,568
その他の有形固定資産	469,440,359	463,095,519	6,344,840	負債の部合計	926,515,363	932,169,833	△5,654,470
その他の固定資産	522,801,500	622,454,400	△99,652,900				
流動資産	1,673,643,872	1,533,696,581	139,947,291	基本金の部			
現金預金	1,617,864,883	1,495,062,631	122,802,252	第1号基本金	3,738,638,786	3,545,165,186	193,473,600
その他の流動資産	55,778,989	38,633,950	17,145,039	第3号基本金	20,000,000	20,000,000	0
資産の部合計	4,822,268,351	4,654,019,613	168,248,738	第4号基本金	86,000,000	86,000,000	0
				基本金の部合計	3,844,638,786	3,651,165,186	193,473,600
				消費収支差額の部			
				翌年度繰越消費収入超過額	51,114,202	70,684,594	△19,570,392
				消費収支差額の部合計	51,114,202	70,684,594	△19,570,392
				負債の部基本金の部及び消費収支差額の部合計	4,822,268,351	4,654,019,613	168,248,738

貸借対照表は、当該年度末において学園が保有する資産、負債、消費収支差額を一覧表示したものです。

基本金とは、学校法人が教育研究その他の諸活動を行うために必要な資産(校地、校舎、機器備品、図書等)を継続的に保持しなければならないもので、教育水準の維持向上と学園の円滑な運営を図るために、常に維持しなければならないものです。

天使学園 財産目録(2008年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1 基本財産		
(1) 土地 札幌市北13条東3丁目30番73他4筆	30,390.2800㎡	438,082,994
(2) 建物 1号館 鉄筋コンクリート造2階建他9棟	14,124.1713㎡	1,718,299,626
(3) 構築物		17,325,644
(4) 教育研究用機器備品	1,806点	154,208,978
(5) 少額重要資産	5,335点	27,956,927
(6) その他機器備品	282点	7,169,231
(7) 図書	83,345冊	262,779,579
(8) 電話加入権		384,400
基本財産計		2,626,207,379
2 運用財産		
(1) 現金・預金		1,617,864,883
(2) 積立金		490,950,000
(3) 未収入金		45,310,989
(4) 長期貸付金		31,467,100
(5) 短期貸付金		10,468,000
運用財産計		2,196,060,972
資産の部合計		4,822,268,351
II 負債の部		
1 固定負債		
(1) 退職給与引当金		256,737,931
(2) 長期預り金		82,000
固定負債計		256,819,931
2 流動負債		
(1) 未払金		18,037,676
(2) 前受金		614,000,000
(3) 預り金		37,657,756
流動負債計		669,695,432
負債の部合計		926,515,363
正味財産		3,895,752,988

監査報告書

2008年5月14日

学校法人 天使学園
理事長 松宮 英視 様

学校法人 天使学園
監事 小片 基
監事 伊藤 好孝

私たち監事は、私立学校法第37条第3項および学校法人天使学園寄附行為第15条の定めに基づいて、本法人の2007年度(2007年4月1日から2008年3月31日まで)学校法人の業務執行状況、事業の実績、および財産の状況を監査しました。

この監査は、私たちが必要と認められた監査手続きにより実施しました。

監査の結果、本法人の2007年度の財産目録、貸借対照表、収支計算書および事業報告書は、財産および収支の状況ならびに事業の実績を適正に表示しているものと認めます。

また、本法人の業務執行の状況について指摘すべき事項はありません。

以上のとおり報告します。

以上

酒とタバコ

看護栄養学部栄養学科教授 関谷千尋

酒飲みには、他人に絡む人や大トラになる人、あるいは肝硬変になる人がいて、かなり悪者扱いされてきた。一方、タバコは紫煙という美しい言葉が残されているように、おしゃれのひとつにもされてきたし、子どもにとっては大人へ脱皮する象徴的な儀式のようにも思われてきた。

しかし、最近は同じく嗜好品とされながらも、世論の対応は一変している。酒には不純物が少なくなったせいが大トラになる人を見かけなくなったし、肝硬変はその多くが肝炎ウイルス由来であることが明らかにされ、実際、肝炎治療によりその数は減少している。加えて生命曲線や有病率などからみると、毎日晩酌する人の方が心筋梗塞(こうそく)の原因となる動脈硬化になりにくく、より長生きしていることが世界的にも確認されている。

一方、喫煙は発がん性物質などさまざまな有害物質を、本人だけならまだしも周辺の人々にまでまき散らしてしまうことから、健康悪の元凶とされ、忌み嫌われている。特におしゃれにすら見えていた紫煙には有害物質が多量に含まれていることから、禁煙区域が徐々に増え、愛煙家にとって気持ちよく吸える場所は一層削られている。愛煙家には悲しい現実であろう。しかし、危険かつ高価な健康食品にまで手を染める今日の健康願望時代を考えると、やむをえない気がする。

考えを変えれば、これだけ健康被害の事実が科学的に明らかにされても喫煙をやめられない人は、時代の反逆者か、偏屈か、単に……なのか? 不思議で仕方がない。かわいそうであるが、同情を求めることなく、自殺行為をやめ、早急に禁煙することが一番の解決となることをもはや認識すべき時がきていると私は感じる。

2009年度天使大学・大学院入学試験結果

※()は、昨年度の数字です

看護栄養学部

◆看護学科

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦	40	54(49)	54(49)	40(41)	40(41)
社会人	37	20(9)	19(9)	8(7)	6(5)
一般		282(261)	280(253)	68(65)	35(34)
センター利用	10	143(132)	143(132)	28(27)	11(10)
総計	87	499(451)	496(443)	144(140)	92(90)

◆栄養学科

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦	45	60(59)	60(59)	45(45)	45(45)
社会人	30	2(2)	2(2)	0(0)	0(0)
一般		103(120)	103(120)	43(46)	35(38)
センター利用	10	82(74)	82(74)	14(17)	9(12)
総計	85	247(255)	247(255)	102(108)	89(95)

◆栄養学科(3年次編入)

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦	5	1(5)	1(4)	0(2)	0(2)

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
前期	8	0(3)	0(3)	0(3)	0(3)
後期		4(3)	4(3)	4(3)	3(2)
総計	8	4(6)	4(6)	4(6)	3(5)

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
前期	3	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)
後期		2(2)	2(2)	2(2)	1(2)
総計	3	5(5)	5(5)	5(5)	4(5)

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
前期	2	1(—)	1(—)	0(—)	0(—)
後期		2(2)	2(2)	2(2)	2(2)
総計	2	3(2)	3(2)	2(2)	2(2)

大学院 助産研究科

試験種別	定員(名)	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦	10	12(14)	12(14)	12(9)	11(8)
基礎分野					
前期一般	15	5(22)	4(13)	3(10)	3(8)
前期社会人		4(5)	4(5)	4(3)	4(3)
後期一般	5	2(4)	2(4)	1(3)	1(2)
後期社会人		4(2)	4(2)	3(0)	3(0)
教育分野					
前期	10	6(—)	6(—)	6(—)	6(—)
後期		2(2)	2(2)	2(2)	1(2)
総計	40	35(49)	34(40)	31(27)	29(23)

学生の今後の日程(6月~12月)

6月19日(金)・20日(土)	天使祭
7月	前期定期試験
10月23日(金)	フード&ライフ ステップアップセレモニー
11月 6日(金)	体育祭
11月28日(土)	戴帽式
12月 8日(火)	創立記念日
12月12日(土)	開学10周年記念講演会
12月15日(火)	クリスマスの集い・学生総会

あなたの声をお聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel 011-741-1051 fax 011-741-1077



天使大学

看護栄養学部/看護学科・栄養学科
大学院/看護栄養学研究科
助産研究科(専門職学位課程)

第15号 2009年6月30日 発行 天使大学広報委員会 年2回発行(秋、春)

http://www.tenshi.ac.jp